

病害虫発生予察特殊報(第2号)

平成16年5月27日
神奈川県病害虫防除所長

病害虫名：*Iris Yellow Spot Virus* (IYSV)

作物名：アルストロメリア

1 発生経過

- (1) 伊勢原市の花き栽培ビニルハウスにおいて、アルストロメリアの茎葉、花弁にえそ症状が発生している旨の通報が湘南地域農業改良普及センターにあり、平成16年4月22日に普及センター職員が農業振興課農業専門技術担当へ診断依頼をした。
- (2) 5月6日に農業専門技術担当らが現地調査を行い、同様のえそ症状を確認した。同時にサンプルを採集し観察したところ、被害個体には糸状菌及び細菌は観察されず、ウイルス病と思われる症状が見られたため同日に農業総合研究所へ同定依頼した。
- (3) 農業総合研究所で試料をペチュニアに接種したところトスポウイルス属の症状が見られた。さらに、RT-PCR検定の結果 *Iris yellow spot virus* (IYSV) による病害と判定された。
- (4) 5月21日に病害虫防除所職員が現地を調査したところ、ハウス内に植栽されていたアルストロメリア(約12a)で茎葉、花弁へのえそ症状が確認された。病徴が見られた品種は‘カルフォルニア’‘フェイゴ’‘バージニア’‘バランス’であり、‘バランス’での被害が少ない傾向にあった。
- (5) 本ウイルスによる病害は、平成15年12月に本県でトルコギキョウで確認されているが、アルストロメリアでは初めての発生である。また、アルストロメリアでは平成8年に千葉県で、平成14年に大分県で発生している。

2 病徴および病原の性質と伝搬

- (1) 発生ほ場で観察された主な症状は、葉や花弁のえそ斑点及びえそ輪紋、葉のえそ条紋、茎のえそ症状であり、葉の黄化やしおれ症状、枯れ込みが強く現れる症状もあった。
- (2) 本ウイルスは海外では花きのほかタマネギ等での発病も問題となる病害とされており、トマト黄化えそウイルス(TSWV)と同属(トスポウイルス属)で病徴も類似している。
- (3) 本ウイルスはネギアザミウマによって永続的に伝搬されることが知られている。種子伝染、土壌伝染はせず、接触伝染も通常はしないと考えられている。

3 防除対策

- (1) 媒介虫であるアザミウマの防除を徹底する。
- (2) 施設栽培では、寒冷紗などを設置して、アザミウマの侵入を防ぐ。
- (3) 周辺の作物や雑草なども伝染源となる可能性があるため、当該作物以外でもアザミウマの防除や雑草防除などの環境整備につとめる。
- (4) 汁液伝染する可能性もあるため、手やハサミなどを使う作業には注意する。



花弁のえそ症状



葉のえそ症状



葉のえそ症状と黄化症状



葉の枯れ込み症状

神 奈 川 県 病 害 虫 防 除 所
〒 2 5 9 - 1 2 0 4 平 塚 市 上 吉 沢 1 6 1 7
T E L 0 4 6 3 - 5 8 - 0 3 3 3
F A X 0 4 6 3 - 5 9 - 7 4 1 1
テレフォンサービス 0 4 6 3 - 5 8 - 6 6 1 2
http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp